スポーツクラブ　明るく豊かな生活のために

1977
作品ナンバー0154

文部省選定　1978年教育映画祭優秀作品賞　チュニジア第１回スポーツ映画祭第１位・青年スポーツ大臣賞

ユニークな活動で知られる神戸市の「垂水区団地スポーツ協会」のあり方を手がかりに、生活に根ざしたスポーツクラブとはどうあるべきか、何をめざすものかを考え話しあう問題提起の映画である。体力づくりからコミュニティづくりへと、スポーツの効用の多面性を紹介した『生活の中のスポーツ』の続編として自主企画した。

阪神のベッドタウン神戸市垂水区では、区民のうち約半数が団地住まい、その大半は他所から来た人ばかり。そんな中でスポーツを楽しむ人たちのクラブ誕生のきっかけは、矢元台公園が市民グラウンドになることになり、地元の人たちのスポーツ活動の拠点を奪われそうになったことだった。集まって公園管理会を作って市と交渉し、清掃管理を引き受けて、公園も優先的に使わせてもらうことにした。子供も手伝って日曜には大掃除。そして「垂水区団地スポーツ協会」を結成、他にもスポーツのために月１回でも確実に使える施設はないかと、学校や企業や公共の施設の交渉を始めた。近くの高圧線下の空き地を見つけ、粘って県から借りて整地、廃品のボールやネットを譲り受け、ゴミの中に見付けたロッカーを塗り替え、自由に使える施設第１号ができた。

　そして８年目、バレーボール部や卓球部、ゴルフ部、野球部など15部2200人の大所帯となって活動拠点も八方に広がっている。協会の方針は各部の代表と役員で決める。機関誌『コミスポ』は会員相互の連帯感の強化に役立っている。運動具店やデパートと契約したスポーツ用品の割引購入も好評である。新しい指導者も大勢育った。８年前はどちらを向いても知らない人ばかりだったこの団地の広場に、スポーツを通じて親しい仲間が大勢できた。

記録
16ミリ
カラー／29分

■自主企画
■協力
　垂水区団地スポーツ協会
　東村山市教育委員会

スタッフ
■企画
　村山英治
■製作・原案
　福間順子
■脚本・演出
　山下秀雄
■撮影
　北川英雄
■照明
　石橋　等
■助監督
　川田一郎
■撮影助手
　山屋恵司
■音楽
　長沢勝俊
■解説
　大沢嘉子